

きょう5月31日は世界保健機関（WHO）が定めた「世界禁煙デー」。今年は「タバコではなく食物を栽培しよう」をテーマに、葉タバコ農家に代替作物への転作を訴える。NPO法人日本タバコフリー学会代表理事で西宮市にある協和マ

きょう世界禁煙デー



「禁煙の推進を始めたきっかけは、

心臓血管外科医として喫煙習慣で動脈硬化を悪化させる患者を多く診て病院の完全禁煙の必要性を痛感していた。神戸市立中央市民病院で勤務していた時に阪神・淡路大震災が発生し、被災地で火事が多発し直ちに病院内完全禁煙を提案したが、喫煙する医師たちの反対で実現できなかった。その後、禁煙化の取り組みを開始。5年後の2000年に当時は珍しかった病院の全館禁煙を達成した。

その後、より多くの人の命や健康に寄与できるたばこフリー（たばこのない）社会を目指そうと公衆衛生へ。西宮市保健所長を10年務め、西宮市役所や兵庫医科大学などの完全禁煙に尽力した。11年にNPO法人日本タバコフリー学会を立ち上げ、15年からは協和マリナホスピタルでがんの末期患者の緩和ケアに取り組み、改めてたばこの犠牲者の多さとたばこフリー活動の重要性を認識している。

日本タバコフリー学会 代表理事
日本緩和医療学会認定 専門医

蘭 潤氏に聞く

リナホスピタル・緩和ケア内科医師の蘭潤氏にたばこの環境や生産農家への悪影響について、同市内で全席完全禁煙の中国料理店を営む内野繁氏にはクリーンで温かな店づくりについて話を聞いた。

「たばこの犠牲者はどれくらいいるのか。」

WHOによると、毎年、世界で800万人以上がたばこによって命を落としている。そのうち700万人以上が喫煙者。約120万人は非喫煙者で、受動喫煙にさらされた犠牲者だ。

新型コロナウイルスによる世界の死者数は累計約690万人。コロナの3年間の全犠牲者より、たばこによる年間死亡者数が上回り、年々増加

しているのは深刻な問題だ。今年のテーマ「タバコではなく食物を栽培しよう」に関して。

タバコ栽培のために世界中で毎年350万畝の農地、20万畝の6億本の森林伐採で20億トンの水が使用されCO₂排出量は8400万ト以上に上り、たばこの製造や輸送で排出される温室効果ガスは航空業界全体の排出量の5分の1にも相当する。葉タバコ栽培には殺虫剤や肥料の大量投与

が必要で、土壌の劣化が避けられない。また戦争や気候変動などが原因で世界の食糧危機は増大している。日本の2022年度の葉タバコ生産は8782トンで、輸入はその3倍の2万7千トン。これはたばこ産葉が価格の安い海外の葉タバコに切り替えている結果だ。

環境破壊防ぎ SDGs 推進

葉タバコ栽培国のトップ10のうち9カ国が低・中所得国で、うち4カ国はマラウイなど食料難に見舞われる国々だ。それらの国では栽培中の殺虫剤や有毒化学物質の大量投与によって、栽培者やその家族が健康被害を被っている。さらにたばこ会社との不公正な栽培契約が農家を貧困に陥れ、児童労働は教育を受ける権利を阻害している。

「読者にメッセージを。」

国連の持続可能な開発目標（SDGs）の目標3の健康と福祉では、WHOのたばこ規制枠組み条約（FCTC）の推進が勧告されている。今年のテーマは、FCTC第4条6および第17条の転作への支援、第18条の環境及び人の健康保護を踏まえている。またSDGs目標1の貧困の終了、2の飢餓ゼロ、4の教育の確保、15の陸上資源の持続可能化にも合致している。たばこ栽培の問題は、他国の話ではなく、輸入葉に頼る日本は間接的加害者の立場だ。SDGsの目標3に挙げられたFCTCの推進が、SDGsの他の目標達成にも大きく貢献する。たばこのない社会の実現が、人類と地球を守る。

兵庫県タバコフリー協会副会長・医師 蘭 はじめ氏

喫煙者の周りには受動喫煙で命と健康を脅かされている人たちがいます。家族、友人、職場の仲間のみならず、換気扇の向こうの近隣住民や、集合住宅で空気を共有せざるを得ない入居者にも被害は広がります。苦情に際して、喫煙者は強く反発し管理側も個人の喫煙には介入できないと諦めがちです。被害者側が引越を余儀なくされる理不尽な現実もあります。

苦情を好機に禁煙して

世界保健機関（WHO）は受動喫煙には安全なレベルはないとしています。受動喫煙被害の声を封じ込め、生存権という最も大事な基本的人権をないがしろにして被害者の命を脅かす

集合住宅含めた規制を

きる仕組みです。「たばこは有害でないもの」と自覚でき、ストレスの少ない落ち着いた日々が送れるようになります。

苦情をきっかけに、禁煙できれば、喫煙者も家族もたばこの犠牲になるのを防げるかもしれません。ともにたばこの犠牲者である喫煙者、受動喫煙被害者間の無益な争いを防ぐためにも、集合住宅は全面禁煙にすることが必要です。個々の住宅はプライベートスペースですが、居住者全員にきれいな空気を確実に保証することは、集合住宅管理者の重要な責務です。集合住宅を含めた、より強力なたばこ規制の法律が強く望まれます。

たばこによる死亡者数と新型コロナの死亡者数の比較

	たばこ(年間)	新型コロナ(累計)
世界	800万人以上	693万5889人
日本	21万2千人	7万4694人

たばこ：世界はWHOファクトシート、日本は医学雑誌「ランセット」に米ワシントン大保健指標評価研究所が出した論文から
新型コロナ：世界はWHO（5月24日時点）、日本は内閣官房（5月9日時点）

白いマーボー豆腐、五感で味わうサラダ…。看板料理とともに、来店客はおしゃべりや過ぎゆく時間をゆったりと楽しむ。「青椒（ピーまん）」はJR西宮駅から徒歩3分とは思えない、静かな路地にたたずむ中国料理店。2020年に改正健康増進法が全面施行され、屋内原則禁煙となる30年ほど前から、全席禁煙を続けてきた。オーナーシェフの内野繁さんは「店内に置く木炭の消臭効果も相まって、清潔で居心地のいい空間を楽しんでもらっている」と話す。

西宮の中国料理店 青椒



中国料理店「青椒（ピーまん）」を営む内野繁さん（左）、明美さん夫妻＝西宮市松原町

30年前から全席禁煙に

「禁煙は愛」の表示も

「禁煙は愛」の表示も

常連客の一言きっかけ



華へと進化させた。繁さんの言う「青椒でしか出せない味。心も体も元気になってもらえらる中華料理」は、住民をはじめ、西宮という場所柄、球界関係者にも愛される。お客さんの心からの「おいしかったよ」「ありがとう」を聞ける瞬間が、内野夫妻にとっての一番の喜び。「これからも幸せな食後感味わってもらうために、クリーンで温かなお店づくりを続けたい」と話している。

今年の世界禁煙デーのテーマに合致する条項

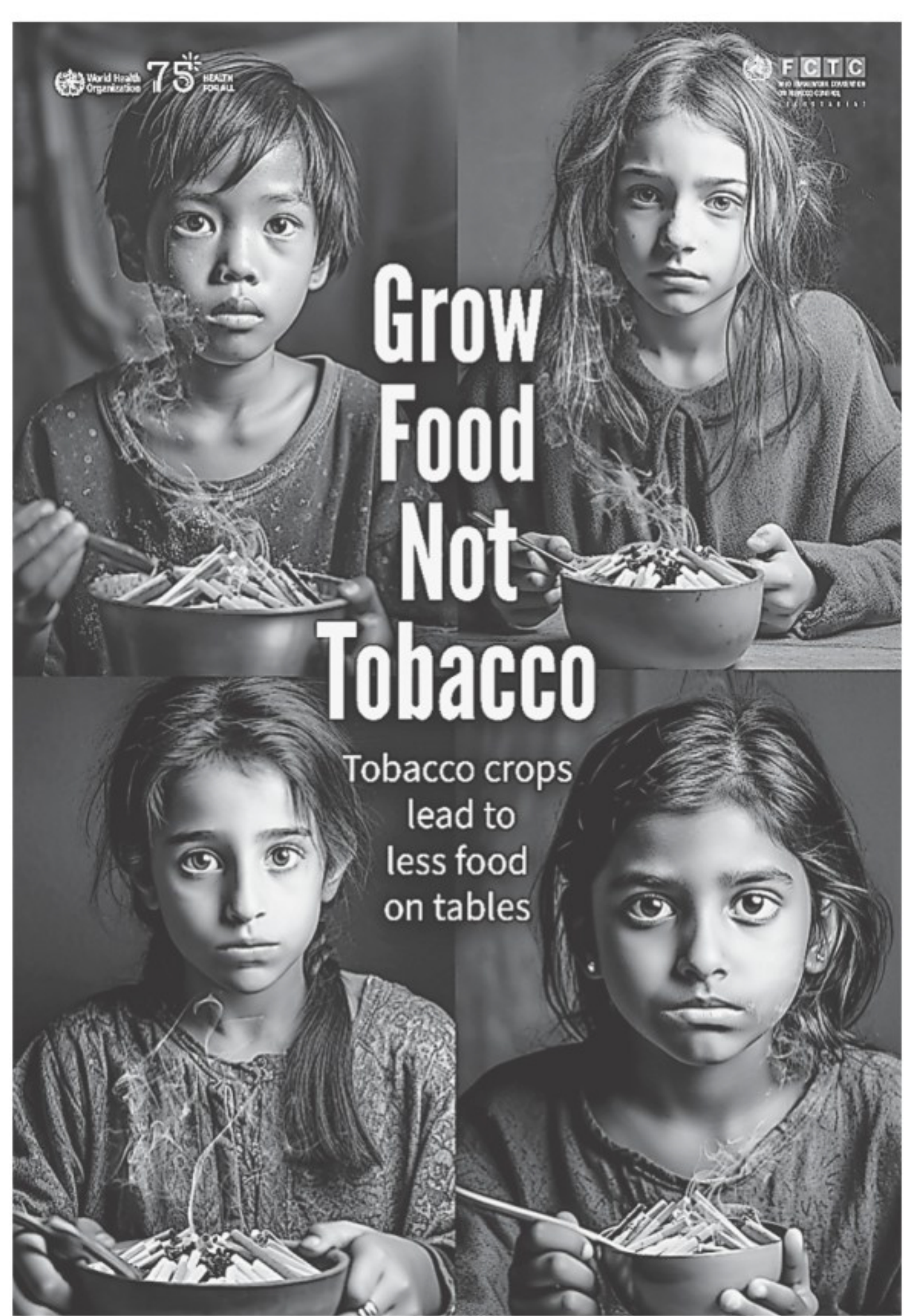
SDGs (国連)

- 目標1 貧困をなくそう
- 目標2 飢餓をゼロに
- 目標3 すべての人に健康と福祉を
- 3.a すべての国々においてFCTCの実施を適宜強化する
- 目標4 質の高い教育をみんなに
- 目標15 陸の豊かさも守ろう

FCTC (WHO)

- 第4条：基本原則
- 6. タバコ耕作者・労働者の経済的移行のための技術・資金援助の取り組み
- 第17条：経済的に実行可能な代替の活動に対する支援の提供
- 第18条：環境および人の健康の保護

今年の世界禁煙デーのポスター「タバコではなく食物を栽培しよう」



店内に掲示している「店内完全禁煙」のステッカー。禁煙は愛の表示も

「禁煙は愛」の表示も

常連客の一言きっかけ

「心も体も元気になってもらえらる中国料理」を常に心がけている内野さん